

Ⅲ 結果のあらまし

1. 定住意識

福生市に住んで何年になるかについては、「30年以上」(36.7%)が最も多く、4割弱となっている。次いで、「20～30年未満」(20.9%)が約2割となっている。以下、「10～20年未満」(16.8%)、「5～10年未満」(12.6%)、「1～5年未満」(8.0%)、「1年未満」(4.4%)と続く。

定住意向については、「ずっと住み続けたい」(38.8%)が3割台後半と最も多く、これに「当分の間住みたい」(35.6%)を合わせた【住み続けたい】(74.4%)の割合は、7割台半ばを占める。一方、「できれば市外に移転したい」(10.3%)と「移転する」(1.3%)を合算した【移転したい】(11.6%)は約1割にとどまっている。

移転したい人にその理由を尋ねたところ、「騒音などの公害がある」(23.8%)が2割強と最も高くなっている。次いで「交通が不便」(16.2%)が高く、1割半ばとなっている。

2. 生活環境評価

生活環境に関する12項目の評価については、「非常に満足」と「まあ満足」を合わせた【満足】の割合が最も高いのは、「住まいの日当たり、風通し」(50.3%)で約2人に1人が満足している。次いで「ごみの収集方法」(46.5%)、「食料品、日用品の買い物の便」(44.9%)、「緑や空気など自然環境」(42.7%)、「道路や排水の整備」(39.3%)、「通勤・通学や外出のときの交通の便」(39.2%)が約4割と高くなっている。一方、「やや不満」と「非常に不満」を合わせた【不満】の割合が最も高いのは、「騒音、振動、大気汚染などの公害」(43.5%)で4割台半ばを占める。次いで「老後の生活を送る場所として」(27.0%)が2割台後半、「通勤・通学や外出のときの交通の便」(19.1%)、「食料品や日用品の買い物の便」(17.2%)と続く。

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために加重平均値による数量化を試みた。これは「非常に満足」に2点、「まあ満足」に1点、「普通」に0点、「やや不満」に-1点、「非常に不満」に-2点のように、評価それぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。この算出方法では、評価点は+2.00点～-2.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+2.00点に近いほど評価は高く、逆に-2.00点に近いほど評価は低いことになる。

これによると、最も評価点が高い項目は「住まいの日当たり、風通し」(0.52)となっている。次いで、「ごみの収集方法」(0.46)、「食料品、日用品の買い物の便」(0.33)が続いている。一方、最も評価が低い項目は「騒音、振動、大気汚染などの公害」(-0.39)、次いで「老後の生活を送る場所として」(-0.14)がマイナスの評価点となっている。

生活環境の総合評価については、「非常に住みやすい」(5.5%)と「まあ住みやすい」(45.7%)を合わせた【住みやすい】(51.2%)が約半数となっている。一方、「やや住みにくい」(9.0%)、「非常に住みにくい」(1.2%)を合わせた【住みにくい】(10.2%)は約1割にとどまる。また、「普通」は37.7%となっている。

3. 福生市の魅力と将来像

福生市の施設や行事で福生らしい魅力を感じるものについては、「七夕まつり」(65.0%)の割合が最も高く、6割半ばとなっている。次いで「多摩川沿いサクラ並木」(49.6%)が約5割、「横田基地」(45.1%)が4割半ば、「多摩川」(38.6%)、「玉川上水」(37.9%)、「ほたる祭り」(31.8%)、「国道16号線沿いの商店街」(31.8%)が3割台、「多摩川中央公園」(27.4%)、「さくら祭り」(26.0%)が

2割台後半と続く。

福生市の将来像については、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」(55.0%)の割合が最も高く5割半ばとなっている。次いで「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」(37.4%)が3割後半、「緑豊かな美しい景観のまち」(31.5%)、「安心して子育てができるまち」(29.0%)が約3割で続いている。

4. 環境問題

ごみ減量やリサイクルで心がけていることについては、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」(82.9%)の割合が8割を占め、最も高くなっている。次いで「買い物袋を持参している」(57.3%)が5割後半、「繰り返して使えなくなった物は、分別して資源としてリサイクルする」(51.8%)、「不要なものや使い捨ての商品は買わない、過剰包装は断る」(48.6%)が約5割である。以下、「再生紙の商品(トイレットペーパーなど)を利用している」(33.5%)、「食料品の買い過ぎや食事の作りすぎに注意している」(33.2%)、「丈夫なものを選び長く使う、修理して使う」(25.7%)と続く。

環境問題についての関心事については、「地球温暖化」(84.6%)の割合が最も高く、8割半ばとなっている。次いで、「自然破壊」(52.7%)が約半数、「水質汚染」(40.1%)が4割台で、「自動車・工場などからの大気汚染」(23.8%)、「ダイオキシンの発生」(22.4%)、「自動車騒音」(20.5%)が2割前半で続く。

5. 福祉社会

子どもの健全育成に必要な施策については、「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」(59.7%)の割合が最も高く6割となっている。次いで、「保育サービスの充実」(40.3%)が約4割で続いている。以下、「ゆとりある教育環境の確保」(28.4%)、「身近な地域で子育ての相談や学習などが気軽にできる環境の推進」(28.3%)、「世帯人員に応じたゆとりある住宅確保等のための住環境の整備」(18.4%)となっている。

ボランティア活動への参加経験については、「したことがある」(20.4%)は5人に1人となっている。

今後のボランティア活動への参加意向については、「今後は参加したい」(59.5%)が約6割となっている。一方、「今後は参加したくない」(37.1%)は3割後半となっている。

老後をどのように暮らしていきたいかについては、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(31.9%)と「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」(31.2%)が3割台と高くなっている。「自分に適した仕事を持ちたい」(22.4%)は2割台となっている。

バリアフリー社会の現況については、「以前よりは利用しやすくなってきたが、中にはまだ利用しにくい場所もある」(50.5%)が最も割合が高く、約半数となっている。以下、「わからない」(27.9%)、「利用しにくいところが多い」(15.7%)、「全体的に利用しやすい」(4.6%)となっている。

バリアフリー化実現のための重点項目については、「誰もが利用しやすいように建物や道路、交通機関などを整備していくこと」(43.1%)が最も割合が高く、4割前半となっている。次いで、「高齢者や障害者の方などに対し、一人ひとりが思いやりの気持ちを持って行動すること」(31.8%)が約3割、「バリアフリーについての理解を促進するため、行政が市民や事業者に向けた周知、啓発を推進すること」(13.2%)、「各施設が利用者に対するサービスを工夫すること」(9.0%)となっている。

バリアフリーのまち実現のための取り組みについては、「まちの中で高齢者や障害者の方が困って

いたら、手助けをする」(54.1%)が最も割合が高く、5割半ばとなった。次いで、「歩道や点字ブロックなどに、歩行の妨げになるもの(自転車や看板など)を置かない」(38.3%)が4割弱となっている。

6. 横田基地

横田基地の賛否については、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」(55.0%)が最も多く、5割半ばとなっている。これに「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」(21.9%)、「国の防衛政策上のための施設であり、あって当然である」(6.5%)を合わせた【肯定派】(83.4%)が8割前半となっている。

横田基地の今後のあり方については、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにすべきだ」(34.1%)が最も高く、3割前半となっている。共同使用に賛同する「米軍と自衛隊とで共同使用すべきだ」(34.0%)もほぼ同数となった。「民間空港にするべきだ」(18.0%)は約2割となっている。

7. 防災・防犯対策

現在放送中の防災行政無線放送のうち、『火の元・戸締りの必要性』については、「必要」(39.2%)が最も割合が高く約4割となっている。これに「どちらかと言えば必要」(35.6%)を合わせた【必要】(74.8%)は7割半ばとなっている。一方、「不要」(6.5%)、「どちらかと言えば不要」(15.8%)を合わせた【不要】(22.3%)は約2割となっている。

『火災発生・消防団出動のお知らせ』については、「必要」(62.1%)が最も割合が高く約6割、これに「どちらかと言えば必要」(26.4%)を合わせた【必要】(88.5%)は9割弱となっている。一方、「不要」(5.7%)と、「どちらかと言えば不要」(2.9%)を合わせた【不要】(8.6%)は1割弱となっている。

『火災鎮火のお知らせ』については、「必要」(51.4%)が最も割合が高く約半数、これに「どちらかと言えば必要」(29.5%)を合わせた【必要】(80.9%)は約8割となっている。一方、「不要」(4.9%)、「どちらかと言えば不要」(7.5%)を合わせた【不要】(12.4%)は1割強となっている。

その他の現在放送中の防災行政無線放送については、『行方不明者のお知らせ』で「必要」(63.7%)と、「どちらかと言えば必要」(25.5%)を合わせた【必要】(89.2%)が最も高い割合を示し、『児童の帰宅を促すチャイム』も、「必要」(65.9%)、「どちらかと言えば必要」(22.4%)を合わせた【必要】(88.3%)が約9割と高い割合を示す。「不要」と「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】の割合が一番高かったものは、『横田基地での大音響によるサイレン訓練』で、「不要」(19.4%)、「どちらかと言えば不要」(19.7%)を合わせた【不要】(39.1%)は約4割となっている。

現在放送していない防災行政無線放送の必要性については、『気象警報のお知らせ』で、「必要」(63.1%)と「どちらかと言えば必要」(25.8%)を合わせた【必要】(88.9%)が9割弱となり、最も高い割合を示す。一方、「不要」と「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】の割合が最も高かったものは『ペットの捜索』で、「不要」(41.5%)と「どちらかと言えば不要」(28.3%)を合わせた【不要】(69.8%)が約7割となっている。

身近な犯罪への不安感については、「少し感じる」(44.8%)が4割半ばで最も割合が高く、これに「強く感じる」(39.8%)を合わせた【不安を感じる】(84.6%)が8割半ばとなっている。

安全で安心して暮らすことのできるまちづくりのために必要なことについては、「警察や市による

防犯パトロールの強化」(71.3%)が最も割合が高く、約7割となっている。以下、「街路灯・防犯等の増設」(41.5%)が約4割、「繁華街や公共施設への防犯カメラの設置」(25.4%)、「犯罪発生等に関する情報提供」(19.4%)、「市民の防犯意識の向上」(17.3%)、「町会・自治会などの地域住民による防犯パトロールの推進」(11.5%)となった。

8. 国際化社会

今後、外国との交流がすすむ中で、どのようなことができると思うかについては、「外国人に対して差別をしたり、特別視をしない」(39.8%)が最も多く約4割となっている。以下、「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通じた交流をする」(12.5%)、「外国語や外国に関する勉強をする」(10.6%)と続く。

国際化を進めていくうえでの重点項目については、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」(40.6%)の割合が最も高く約4割、次いで「小・中学校などに外国人教師を招き、外国語教育に力を入れる」(33.2%)が3割台となっている。以下、「福生市独特の国際色豊かなまち並みをつくる」(17.4%)、「外国の特産品の展示会を開くなどの経済交流を盛んにする」(14.8%)、「外国の都市と姉妹都市の提携をする」(13.5%)、「国際交流センターなどの国際化を進める施策を整備する」(12.0%)と続く。

9. 地域振興

ふっさ七夕まつりの参加状況については、「毎年行く」(34.1%)が最も割合が高く、「ときどき行く」(31.5%)と並んで3割台となっている。以下、「めったに行かない」(17.7%)が1割後半、「全く行かない」(14.7%)が1割半ばとなっている。

日用品の購入店舗については、「スーパー」(87.2%)が最も割合が高く8割後半、次いで「ドラッグストア」(59.4%)が約6割、「大型ショッピングセンター」(56.6%)が5割台半ば、「コンビニ」(46.6%)、「ホームセンター」(43.3%)、一般商店(16.0%)の順となっている。

日用品・食料品の購入時の交通手段については、「車」(53.3%)が最も割合が高く、約5割となっている。以下、「バイク・自転車」(25.7%)、「徒歩」(17.9%)、「電車・バス」(1.2%)の順となっている。

日用品・食料品を最も良く購入する店舗の所在地については、「市内」(66.9%)が6割半ば、「市外」(30.8%)が約3割となっている。

市内の商店に希望するサービスについては、「品物の安さ」(62.7%)が最も割合が高く、「豊富な品揃え」(61.5%)とともに約6割となっている。以下、「対応の良さ」(30.2%)、「ポイントカード」(28.0%)の順となっている。

消費者相談室の認知状況については、「いいえ(知らない)」(52.8%)、「はい(知っている)」(44.1%)となっている。

消費者問題についての関心事については、「食の安全」(60.7%)が最も割合が高く、「悪徳商法」(59.7%)とともに約6割となり、以下、「インターネット」(13.8%)、「お墓・お葬式」(12.5%)、「多重債務」(10.9%)、「美容」(3.3%)の順となっている。

10. 男女共同参画

男女の地位について身近な場における評価については、「平等」の割合が最も高かったのは『教育の場』(59.7%)で約6割を占める。次いで、『家庭生活』(43.1%)、『職場』(31.2%)、『社会通念や習慣』(23.4%)、『社会全体』(23.4%)となっている。また、「女性の方が優遇されている」と「やや女性の方が優遇されている」を合わせた【女性の方が優遇】は、ほとんどの項目で1割にも満たないが、『家庭生活』(15.8%)では1割半ばであった。一方、「男性の方が優遇されている」と「やや男性の方が優遇されている」を合わせた【男性優遇】は、『社会生活や習慣』(52.6%)、『社会全体』(52.4%)では5割前半となっている。

男女共同参画社会の実現のための重点取り組みについては、「ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を高める子育て支援の施策」(34.4%)が最も割合が高く、「高齢者・障害者の介護や支援に関する施策」(33.2%)、「女性の能力開発や就労支援」(30.6%)と並んで3割台となっている。以下、「女性の健康支援・自立支援など、生活を支える取組み」(27.4%)、「情報誌の充実など市民の意識を高める情報の提供」(20.8%)、「市政などへの女性の参画の促進」(20.3%)などとなっている。

11. 行政改革

福生市に求める行政改革については、「民間企業並みのコスト意識を持って事務事業や効率的運営に努める」(69.7%)の割合が最も高く7割弱となっている。次いで、「職員数を増やさず、事業の委託化や臨時職員の採用等工夫する」(49.3%)が約5割と高くなっている。以下「施設利用やサービスを受ける場合、ある程度の費用負担するのは当然」(30.6%)、「近隣自治体との施設等の広域利用などをもっと進めるべき」(29.5%)、「新しい事業や施策のためには、補助金・交付金等の見直しもやむを得ない」(28.2%)などとなっている。

近隣の市や町との合併の賛否については、「賛成」(16.4%)と「どちらかと言えば賛成」(25.8%)を合わせた【賛成】(42.2%)の割合は4割前半となっている。一方、「どちらかと言えば反対」(27.3%)と「反対」(22.1%)を合わせた【反対】(49.4%)は約半数となっている。

12. 市税等の納入

市税などを納入する際に不便を感じていることについて尋ねたが、「不便を感じていない」(71.0%)人が約7割を占めており、多数の人が現状で不自由していないと言える。不便を感じている中では、「ATM、パソコン端末、携帯電話端末で納めることができないので不便を感じる」(8.4%)が最も割合が高かったが、1割弱である。

インターネットバンキングの利用状況については、「利用していない」(80.4%)が約8割、「利用している」(16.0%)が1割半ばとなっている。

13. 広報・ホームページ

市で発行している広報紙のうち、『広報ふっさ』の閲読度については、「ざっと目を通す」(43.0%)が最も割合が高く、これに「詳しく読む」(24.4%)と「必要なところだけ読む」(17.3%)を合わせた【読む】人(84.7%)の割合は8割半ばとなっている。一方、「ほとんど読まない」(10.6%)と「見たことがない」(2.6%)を合わせた【読まない】人(13.2%)は1割前半となっている。

『広報ふっさ』を【読む】人に関心のある記事を尋ねたところ、「催しもの関係」(33.6%)が最も

多く、約3人に1人となっている。以下、「保健・衛生関係」（13.6%）、「福祉関係」（11.5%）、「税金関係」（10.1%）と続く。

『福生市議会だより』の閲読度については、「ほとんど読まない」（32.8%）が最も高く約3人に1人となっている。これに「見たことがない」（4.8%）を合わせた【読まない】人（37.6%）は4割弱となっている。一方、「詳しく読む」（5.5%）、「ざっと目を通す」（28.7%）、「必要なところだけ読む」（24.5%）を合わせた【読む】人（58.7%）は6割弱となっている。

『福生市議会だより』を読んでいる人に関心のある記事を尋ねたところ、「可決された案件や陳情」（36.3%）が最も割合が高く3割半ば、次いで「一般質問について」（26.4%）、「委員会の活動状況」（14.3%）、「予算・決算の内容」（9.9%）、「本会議の過程」（8.4%）となっている。

『福生の教育』の閲読度については、「ほとんど読まない」（30.9%）が最も高く約3割となっている。これに「見たことがない」（11.0%）を合わせた【読まない】人（41.9%）は約4割となっている。一方、「詳しく読む」（4.4%）と「ざっと目を通す」（26.1%）、「必要なところだけ読む」（23.7%）を合わせた【読む】人（54.2%）は5割半ばとなっている。また、「見たことがない」（11.0%）の割合は、同時に聞いた『広報ふっさ』（2.6%）、『福生市議会だより』（4.8%）と比べ高い割合を示した。

市の情報を何から得ているかについては、「市の広報誌」（67.3%）が最も割合が高く6割後半となっている。以下、「町会・自治会の回覧物」（11.8%）、「市で作成したパンフレット、ポスターなど」（5.5%）、「市のホームページ」（4.8%）、「新聞、テレビなどのマスメディア」（4.5%）、「携帯電話による市政情報サービス」（0.4%）となっている。

市のホームページの閲覧状況については、「見たことはない」（61.2%）が最も割合が高くなっている。以下、「過去何回か見たことがある」（32.2%）、「月1回以上見ている」（3.0%）、「週1回以上見ている」（0.4%）、「ほぼ毎日見ている」（0.4%）となっている。「見たことはない」と無回答を除いた【見ているまたは見たことがある】（36.0%）の割合は3割半ばとなっている。

インターネットの利用状況とともに回線種別について尋ねたところ、「利用していない」（30.8%）が最も割合が高く、約3割となっている。「利用していない」と無回答以外では、「光回線」（28.3%）が最も割合が高く3割弱、以下「ADSL」（16.1%）、「携帯電話・PHS」（7.1%）、「CATV」（6.8%）、「アナログ回線」（1.6%）、「ISDN」（1.5%）の順となっている。

福生市議会のインターネット中継の閲覧状況については、「見たことがない」（93.5%）が9割以上を示す。「ライブ中継と録画中継の両方を見た」（0.3%）、「ライブ中継のみ見た」（0.9%）、「録画中継のみ見た」（1.9%）を合わせた【見たことがある】（3.1%）と極めて少数となっている。

14. 市民と市政

市政への市民参加についてどのような方法で参加したかについて尋ねたところ、「市の各種世論調査」（30.9%）の割合が最も高く約3割となっている。「イベントなどへのボランティア参加」（20.8%）は約2割、「まちづくりモニター制度」（15.8%）、「市と協働する市民活動」（13.1%）、「学校支援のためのボランティア参加」（11.2%）、「公聴会」（10.2%）で1割を超えている。また、「参加したくない」（27.3%）の割合が3割弱と高くなっている。

これからの施策への要望については、「高齢福祉対策の推進」（32.4%）の割合が最も高く、約3割となっている。「健康診査などの保健対策」（22.5%）で約2割、以下、「地震などの防災対策」（17.7%）、「学校教育の充実」（16.1%）、「騒音などの公害対策」（15.8%）、「地球温暖化等の環境対策」（12.9%）、「道路や排水の整備」（12.9%）、「児童福祉対策の推進」（12.5%）、「歩道や信号機等の交通安全対策」

(12.3%)、「樹木や緑地保全等の緑化対策」(10.7%)と続いている。

施策の認知状況については、「良く知っている」と「少し知っている」を合わせた【知っている】は、『市民無料相談』(53.7%)が最も割合が高く約半数となっている。以下、『西多摩8市町村の図書館を利用できる』(35.8%)、『福生市育英資金制度』(22.6%)、『福生市入学資金融資制度』(19.8%)、『福生輝き市民サポートセンター』(14.1%)、『市政出前講座』(8.0%)、『市民活動災害補償制度』(6.8%)の順となっている。「良く知っている」の割合が高かったものは『西多摩8市町村の図書館を利用できる』(15.5%)、『市民無料相談』(13.6%)で1割半ば、「知らない」の割合は『市政出前講座』(67.5%)、『市民活動災害補償制度』(61.4%)、『福生輝き市民サポートセンター』(51.2%)で半数を超えている。